高校入試が中学3年の生徒に与える精神的な影響について

天野菊三郎・加藤十八・加藤　剛

われわれ中学3年の担任として，高校入試を前にして，入試が生徒に対してどのような精神的な影響を与えるかを明らかにしたいと思った。この研究自体がかなり漠然としたものであるので，研究方法としては，なるべく数値をもって結論を出していこうと考えた。このことが，ある意味でかなり無理な方法であったかも知れない。また一面からしか考究していないうらみもあったが，ただ観念的に，入学試験が悪影響を与えるとの前提に立って生徒の心の動きをとらえることは危険であるとの判断から，なるべく調査の結果だけから結論を導きだすように努力した。もっと広く，多方面から有力な研究方法によって行われるべきものと思われるが，研究の一方法として以下述べてみたい。

表 I

上位グループ						中位グループ						下位グループ					
平均順位	男女	進歩率	関心度 6月	8月	10月	平均順位	男女	進歩率	関心度 6月	8月	10月	平均順位	男女	進歩率	関心度 6月	8月	10月
1	男	0	1	—	2	31	女	−0.6	1	0	2	70	男	−2.8	2	0	6
2	男	0	0	2	2	32	男	+2.0	0	0	2	71	女	+1.1	0	2	5
3	男	+0.4	6	3	3	33	男	+1.9	3	6	6	72	男	−1.6	5	1	2
4	男	0	0	6	0	34	男	0	3	1	6	73	男	−0.8	3	2	6
5	男	0	4	6	6	35	女	−0.5	4	3	0	74	男	−1.5	3	2	5
6	女	0	3	5	1	36	女	+2.1	6	5	3	75	男	0	0	0	3
7	男	+1.5	6	0	2	37	男	−2.5	0	0	3	76	女	+1.3	0	0	3
8	女	+0.8	6	6	2	38	女	−3.8	3	2	0	77	女	+0.6	6	0	6
9	女	+0.6	6	2	0	39	男	−3.0	0	4	6	78	女	+2.3	5	6	3
10	男	+0.5	6	4	0	40	女	+1.1	6	6	3	79	女	+0.5	4	6	5
11	女	+0.5	5	2	6	41	男	−1.8	0	0	3	80	男	−4.0	0	0	3
12	男	−0.8	0	2	6	42	男	−1.1	0	0	0	81	男	−2.3	3	2	6
13	男	−0.9	0	3	3	43	男	+1.4	0	6	6	82	男	0	2	0	3
14	男	0	0	2	4	44	女	+0.9	0	6	5	83	男	+1.6	5	1	1
15	女	+0.6	0	3	0	45	男	+0.8	0	1	0	84	女	+1.5	3	—	4
16	男	+0.6	1	3	0	46	女	0	3	0	3	85	女	+0.4	0	2	4
17	男	0	6	3	6	47	男	−1.9	3	3	0	86	男	0	3	6	2
18	女	0	3	3	0	48	女	−0.6	0	5	6	87	男	+1.0	3	3	3
19	男	−1.3	1	0	1	49	男	+1.6	1	6	5	88	女	+0.8	5	1	6
20	男	−2.5	0	1	1	50	男	+0.8	0	2	—	89	女	+0.4	6	1	3
21	女	+1.1	3	4	3	51	女	+1.1	3	5	6	90	女	−1.3	0	0	3
22	男	−2.5	0	6	6	52	男	0	0	0	3	91	女	+0.4	0	3	5
23	女	−1.9	6	1	5	53	男	+1.0	0	6	1	92	女	+0.8	0	6	1
24	女	+16	0	6	6	54	女	+2.1	0	0	0	93	女	0	0	1	3
25	男	0	0	0	5	55	女	0	0	5	3	94	女	0	6	6	6
26	女	0	0	1	4	56	女	+1.4	6	6	5	95	男	+0.5	4	1	6
27	女	+2.3	3	6	5	57	女	+2.1	6	2	6	96	男	0	0	0	5
28	女	+1.3	6	0	4	58	女	+0.4	3	1	3	97	女	0	3	1	0
29	女	+1.3	5	4	4	59	女	+3.1	6	3	3						
30	男	+1.8	0	0	0	60	男	+1.5	0	0	3						
						61	男	+0.5	2	3	4						
						62	男	−2.1	1	1	3						
						63	男	−2.3	0	0	4						
						64	女	−1	4	6	1						
						65	女	−1.4	0	6	5						
						66	男	+2.4	0	6	2						
						67	男	+1.1	4	0	1						
						68	男	−2.4	0	0	5						
						69	女	−1.3	0	2	3						

Ⅰ　実験方法，実験値

表Ⅰは平均順位，進歩率，関心度を表わすものである。

(1) 平　均　順　位

4月から11月までに15回のテストを行って，毎回の順位を平均したものである。この平均順位に従って，上位から順に並べ約3：4：3の比率で上位，中位，下位のグループにそれぞれ分けた。

(2) 進　歩　率

ある生徒が毎月何番順位が上がっているかを表わす値である。この値は必ずしも学力の絶対的な進歩，退歩を表わすものではない。98人中の順位が上がるか下がるかを表わすものであるから，学年における相対的な学力の進歩を表わすものと考えられる。

進歩率は次のように求めた。

先ず生徒各人の毎回のテストの順位を図1，2のようにグラフにした。例えばある生徒が図1の折線のような順位変化をもっている場合，大体直線aに示すように相対的学力が下がって来ているものと判断する。この直線aによれば4月から11月に亘る8カ月間に20番落ちているから，1カ月当りにすると$-20/8=-2.5$番ずつ落ちる割合となる。このとき進歩率を-2.5とする。落ちる場合は，進歩率は－の値をもつことにする。

このようにして進歩率を求めると，大部分の生徒は大体うまくいくが，中には（4，5例）図2に示す曲線bのような曲線的な変化をしていると思われるものもあるわけである。この場合も図1と同じように a′ に示すような（多少無理ではあるが）直線的な変化を示すものとして進歩率を求めた。進歩率の＋の値は相対的な順位の上昇を表わし，その値が大であればあるほど進歩が著しいと判断される。進歩率が0の場合は進歩退歩がないことを表わしている。－の値は順位の下降を示し，その値が大きければ大きい程相対的な学力が低下しているものと判断される。

(3) 関　心　度

生徒が高校入試に対する関心をどれほど持っているかについて，いろいろ試みてみた。例えば直観法によるテスト（例えば「夏休」という言葉をみた瞬間に何を思ったか，どんなことが浮んだかを書かせそれが入試に関係しているかどうかを判断する）なども試みたが再度に亘って行うことができないので，関心度の推移をみるのに不適当と考え除外した。結局，感想文形式に書かせ，それを担任2人，学年担任1人，計3人によって生徒各々の感想文を読み，入試に対する関心が最も深いと思われるものに2点を与え，やや関心を示してているものに1点を与え，全然関心を示していないものには0点を与えた。3人の評定がすべて2点であれば関心度は最も高く関心度6とした。以下同じようにそれぞれの評点の合計を関心度として表わしている。関心度は6月，夏休直後（8月），10月と3回に亘って次のような質問に自由に書かして調べた。

6月；何んでもよいから思っていることを書きなさい。

8月；夏休みの反省について自由に書きなさい。

10月；何んでもよいから思っていること，悩んでいることについて書きなさい。

以上の資料により次の種々の相関について調べその原因を考究する。

Ⅱ　入試関心度と学力の関係

次の各表は，6月，8月，10月における関心度を上位，中位，下位の各グループ別に人数で表わした表である。

(1)　6月の関心度

関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
上　位	12	3	0	4	1	2	8	30
中　位	20	8	2	3	5	2	0	38
下　位	10	0	2	7	2	4	3	28
計	42	11	4	14	8	8	11	97

(2)　8月の関心度

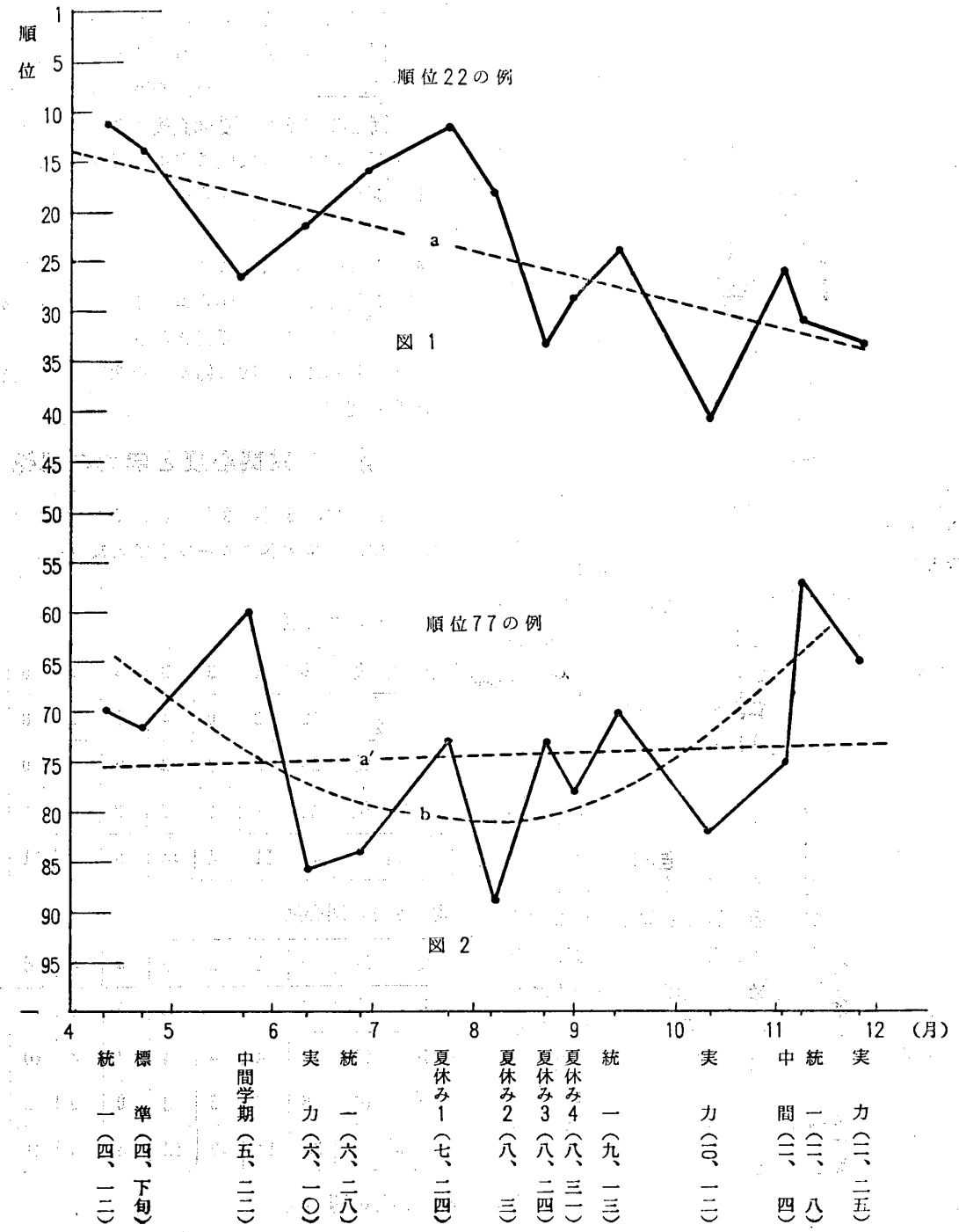
関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
上　位	5	3	4	6	3	1	6	28
中　位	12	4	4	4	1	4	10	39
下　位	8	7	5	2	0	0	5	27
計	25	14	13	12	4	5	21	94

(3)　10月の関心度

関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
上　位	7	3	4	3	4	3	6	30
中　位	6	3	3	12	2	5	7	38
下　位	1	2	2	9	2	5	7	28
計	14	8	9	24	8	13	20	96

上の各表についてχ^2－検定を行ってみた。

進歩率を示すグラフ



テストの略称は次の通り

統　一：中部日本統一テスト（校外で行う）　　標　準：全国標準学力テスト

中　間：学校における中間テスト　　実　力：学校における実力テスト

夏休み：夏休みにおける復習を主とした整理テスト

(1)　6月　$\chi^2=13.6$……5％以内の危険率で有為差あり。

(2)　9月　$\chi^2=9.8$……10％以内の危険率で有為差あり。

(3)　10月　有為差は認められない。

以上の結果から判断するに，6月の調査においては（第1学期）上位グループは入学試験に対して最も関心度が高く，次に下位グループの関心度が高く，最も関心度が低いのが中位のグループであることが，表にみられる数値のように分布していることがはっきり分かる。

このことの原因は次のように考えられる。

(1)　上位グループは外部の高校へ受験しようとの意志をもっているものが多く，それ等のものが1学期から入学試験に対して関心を示しているものと思われる。（後述）

(2)　下位グループの中には入試に失敗する恐怖感が関心度を高めているものと思われる。

次に8月の調査については，6月のときの傾向を大体そのまま持っているが，はっきり断定し得ないようになっている。これはχ^2の値からも明らかである。

10月の調査では，上位，中位，下位の各グループについての差異が認められなくなって来ている。入試に対する関心度が全般的に高くなって，関心度は全く個人的な差異になって，学力に関係がなくなって来ているといえる。

Ⅲ　入試関心度の推移

次の表は6月，8月，10月の関心度の変せんを表わす。

関心度	0	1	2	3	4	5	6
6　月	42	11	4	14	8	8	11
8　月	25	14	13	12	4	5	21
10　月	14	8	9	24	8	13	20

この表で明らかなように6月から10月に亘って入試に対する関心度が明らかに増加していることがわかる。但し，6月，8月，10月の調査内容（質問形式）が同一ではないのでχ^2— 検定は行わなかったが，関心度が全般的に増していることは認めてよいであろう。

次に上位，中位，下位の各グループの関心度の推移を示してみよう。

上位グループ

関心度	0	1	2	3	4	5	6
6　月	12	3	0	4	1	2	8
8　月	5	3	4	6	3	1	6
10　月	7	3	4	3	4	3	6

中位グループ

関心度	0	1	2	3	4	5	6
6　月	20	8	2	3	5	2	0
8　月	12	4	4	4	1	4	10
10　月	6	3	3	12	2	5	7

下位グループ

関心度	0	1	2	3	4	5	6
6　月	10	0	2	7	2	4	3
8　月	8	7	5	2	0	0	5
10　月	1	2	2	9	2	5	7

この表から考えて，上位グループは殆ど関心度の変化が表われていないことである。これに対して中位，下位グループは，6月，8月，10月になるに従って関心度が増していく傾向をもっている。特に下位グループが10月における関心度0なるものが1名だけであるのは注目に値する。下位グループが特に関心度が増しているように思われる。この関心度は入試に対する恐怖感が強くあらわれているものと思われる。

Ⅵ　関心度の男女差

下の表は関心度の男女別の表である。

(1)　**6　月**

関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
男	26	5	6	8	3	2	0	50
女	16	1	0	10	3	4	12	46
計	42	6	6	18	6	6	12	96

(2)　**8　月**

関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
男	18	7	6	7	2	0	9	49
女	7	7	7	5	2	5	12	45
計	25	14	13	12	4	5	21	94

(3) **10 月**

関心度	0	1	2	3	4	5	6	計
男	7	5	7	11	3	5	12	50
女	7	3	2	13	5	8	8	46
計	14	8	9	24	8	13	20	96

上の表のように6月は非常に女子の関心度が高いことが目立つ。$\chi^2=23.7$で0.5%以内の危険率で有為の差をもっている。8月も女子の関心度が男子に優っている。($\chi^2=10.6$で5%以内の危険率で有為の差をもつ)

10月になると男女差がなくなってくる。この傾向も学力との関係と同じように全般的に入試に対する関心度が上昇して，男女差が認められなくなった為であろう。このことからも入試に対する関心度が恐怖感につながっていることを示すものとして考えてよいであろう。女子が本質的に慎重さ，関心度，恐怖感が強いのであろうか。

次に男女差のある6月と8月について，上位グループの男女差を次の表から考えてみる。

関心度		0	1	2	3	4	5	6
男	6月	9	3	0	0	1	0	4
	8月	4	1	2	4	1	0	3
女	6月	3	0	0	4	0	2	4
	8月	1	2	2	2	2	1	3

この表でみられるごとく，女子の方が関心度が高いということはいえない。すなわち，6月，8月頃における女子の関心度が男子よりも高いことは明瞭であるが，それは主として中位以下の生徒の傾向が強くあらわれている。上位グループの男子は女子におとらず関心度をもっていることを示す。これも男子の優秀な生徒が外部高校へ受験の意志があり，これが関心度と結びついたものといえよう。比較的下位の男子に1学期ごろにおける関心度が低いのも問題があろう。

V 入試関心度と進歩率との関係

関心度の高いものが相対的学力（順位）の進歩率がよいかどうかを調べてみる。上位グループ，下位グループは関心度が高くても，低くても表Iにみられるようにあまり進歩率に関係がない。すなわち最上位のグループ，最下位のグループは殆ど進歩率の絶対値が小さく－1と＋1の間にある。それに比して中位グループは僅かな学力進歩で，順位は大きく変わるから，種々の原因によって進歩率の大きく変わる中位グループをとり，進歩率と関心度の関係を次の表のように表わす。

進歩率の大，中，小は下のように区分した。

大……進歩率≧＋1

中……＋1＞進歩率＞－1

小……進歩率≦－1

関心度は6月，8月の関心度の合計が7以上のものを上，1～6のものを中，0のものを下とした。

進歩率＼関心度	上	中	下
大	5	5	3
中	3	9	3
小	1	6	4

この表から関心度の強いものは進歩率がよいということをはっきりとはいえないが，多少関連を示しているという程度である。このことから考えると，教師が入試に対する関心度を高め，学力を進歩させようとする企図は，それがしばしば恐怖感につながるものであるから，その効果と，弊害が半ばするのかも知れない。教師として反省さるべきところであろう。

VI 進歩率の特に低いものの原因

順位	性別	進歩率	不良型	なまけ型	悩み型	不明
19	男	−1.3				○
20	男	−2.5	△			
22	男	−2.5				○
23	女	−1.9			△	
37	男	−2.5	○			
38	女	−3.8		○		
39	男	−3.0			○	
41	男	−1.8	○			
42	男	−1.1				○
47	男	−1.9	○			
62	男	−2.1	○			
63	男	−2.3				○
64	女	−1		○		
65	女	−1.4			○	
68	男	−2.4	○			
69	女	−1.3		○		
70	男	−2.8		○		
72	男	−1.6	○			
74	男	−1.5		○		
80	男	−4.0		○		
81	男	−2.3	○			
90	女	−1.3		○		

この表は進歩率が－1より小さいものを全部とり出し，この進歩率の悪い原因がどこにあるかを示したものである。進歩率が悪いのは，種々の原因が重なり合って現われるものと思われるが，その生徒の最も大きな原因と思われるものについてのみ○印をしてみた。（△印は大体それと思われるもの）各型の模型は大体次のような概念に従った。

(1) **不　良　型**

○所謂不良のまねをするもの

○不良の傾向をもっているもの

(2) **なまけ型**

○勉強の意欲のないもの

○着実な努力の足らないもの

(3) **悩　み　型**

○精神的な悩みをもっているもの

○深刻に物事を考えこむもの

(4) **不　　明**

○原因不明のもの

○この中には家庭的な影響，または精神的な影響が含まれるものと思われる。

この表から考えられることは，進歩率の良くないものに不良型が多いことである。この学年の不良型のもの殆ど全部がこの中に入っている現状からすれば，逆に進歩率（順位グラフを見ればすぐわかる）の悪いものは直ちにその性行面に注意が払われなければならないことになる。中学2，3年頃から，急に成績が悪くなり，高校に入ってからは全く駄目になってしまう生徒がこの部類にはよくみられる。教師，父兄とも成績についてはこのような観点から，再めてよく考えなければいけないことではないだろうか。

次になまけ型が下位グループに多い。努力の結果その成果に自信と喜びを得るような経験を与えることが必要であろう。悩み型，及び原因不明なものについては個々の場合の環境，条件をよく調べ指導に当ることが必要と思われる。（問題児の生活指導参照）

進歩率の悪いものの大部分が男子に多いことも注目される。これは不良型がすべて男子であることからも明らかである。既に不良になっているものは一人もいないが，その様なものを包蔵しているとすぐ順位に響くわけであろうか。

Ⅶ　外部高校受験希望者の実態

本附属高校よりも外部高校へ受験したいとの希望を4月から10月までの間にもったものを次の表にあらわす（調査用紙に書かした）。○印は本人の希望，△印は父兄の希望をあらわす。数字はその生徒の順位を示す。

	外部希望者（太字は女子）
上位グループ（30名）	2○　3○△　5○　7○　**11**○△ 13○　17○△　19○　20△　**28**○ **29**○　（11　名）
中位グループ（39名）	37○　**39**○△　44○　45○　47○ **56**○△　60○△　（7　名）
下位グループ（28名）	72○　81○△　83○　**84**○　**88**○ **94**○　95○　（7　名）

この表のように外部受験希望者は上位グループに多く，これらはすべて所謂有名高校を希望している。中位グループは上位の傾向の外に，運動などのクラブ活動を活発に行いたいというものがでている。下位グループは全部実業高校あるいは私立の高校を希望している。

外部希望者は男子が多く，生徒本人の希望が強く，父兄はあまり積極的でないのが注目される。

上位グループの男子が外部へ出たいとしている希望理由としては，外部の高校がよいという積極的な理由はなく，殆どすべて本校の欠陥を意識して，内部からそれを観察して，外部受験を希望している。このことはかなり問題のあるところであり，ほほかむりで済まされることではないであろう。

生徒の書いた理由のうちから主な理由を述べると

(1) 高校の程度が低い。（選抜の抽せん制，大学入試の合格率などを考えているらしい）

(2) 学校に覇気がない。（校風，クラブ活動などを批判しているもの）

殆どのものがこの2点に集中している。内部からみるから，良いところに気がつかず悪いところがかなり目に映るらしい。

女子の外部希望の中に多いのは友人関係がうまく行かず，外部へ出ようと考えたものが多いのは驚かされる。

Ⅷ　本校の特殊性

以上のような結果を述べて来たが，このことは本校附属中学校の特殊な事情がかなり影響を与え，一般中学3年生とは大分事情の異なる面が多いと思われる。

(1) 中学，高校が同一の校舎でしかも同一な条件で教育している。しかし入試に関する限り，高校教育に堪え得ないと思われるものを落す。このために高校進学に失敗したものは一般中学生以上に精神的なショックを受ける。このために入試に対する関心度が恐怖感に変わっていくものと思われる。若し入試に

失敗したらという想像のもとにかなり極端な言動をはき，そのような考えに沈んでいるものが多いようである。

(2) 中学に入学した時に完全抽せん制で入学したために，生徒自身に劣等感をもっているものがある。本附属高校入試に失敗する位ならば，本附属中学へ入学しなければよかったといっている。これは勿論比較的下位グループのものが多い。

(3) 高校が抽せん入学であること。全体の2割程度が落ち，あと抽せんで決定されるということから，高校の程度が低いと判断する傾向をもっている。これは特に外部受験希望者の理由になっていて，上位グループの生徒に多い。

(4) 高校の様子をよく知っている。

生徒会，クラブ活動などで一諸に高校生と接触をもち，学校の組織も一本になっているため，生徒は高校の良い面，悪い面をよく知っている。

(5) 中学・高校の教師が同じであること。

中学を教えている教師が，そのまま高校の授業を持っているため，中学の指導（受験指導）と高校側としての入学試験官の立場が同一であるため，入学試験において，落第させる限界に大きな矛盾を感ずる。入試に失敗した生徒に対する責任が，教師にあるような関係に立ち，またそのような印象を生徒・父兄にも与えることである。

以上のような種々な特徴をもっている本校において中学3年がもっている希望，苦悩の面をある一つの方向からみただけであるが，種々な問題を含んでいることがわかる。

このような立場からして，われわれ教師としての指導の重要性を再めて認識，反省するわけである。